

交通事故の 心理的・生理的要因について

令和7年度 安全運転管理者等講習



マスコットキャラクター
ナスバちゃん

本日の内容

はじめに(ナスバについて)

1. 交通事故の「原因」と「要因」
2. 交通事故の心理的要因
3. 交通事故の生理的要因
4. ドライバーの特性を測る“適性診断”

はじめに(ナスバについて)



名称:独立行政法人自動車事故対策機構
設立:平成15年3月

(自動車事故対策センター昭和48年)

組織:本部(東京)

全国50支所

療護施設:療護センター4箇所

委託病床8箇所

ナスバは、
自動車事故被害者を「支える」、
自動車事故を「防ぐ」、
自動車事故から「守る」の
3つの業務を一体的に実施

1. 交通事故の「原因」と「要因」

警察の統計によると…

令和6年 原付以上運転者の法令違反別事故件数

順位	違反内容	件数
1	安全不確認	81,238
2	脇見運転	33,441
3	動静不注視	25,813
4	漫然運転	23,257
5	交差点安全進行	18,908
6	運転操作不適	17,349
7	一時不停止	14,273
8	歩行者妨害等	11,209
9	信号無視	10,633
10	優先通行妨害	8,580
—	その他違反全て	24,003
	合計	268,704

全体の
約52%

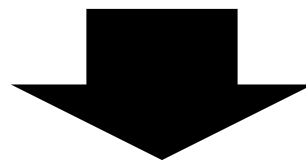
確認不足

1. 交通事故の「原因」と「要因」

1位 : 安全不確認

2位 : 脇見運転

3位 : 動静不注視



事故の**原因**は**確認不足**
何らかの理由で確認不足となった
『**結果**』

1. 交通事故の「原因」と「要因」

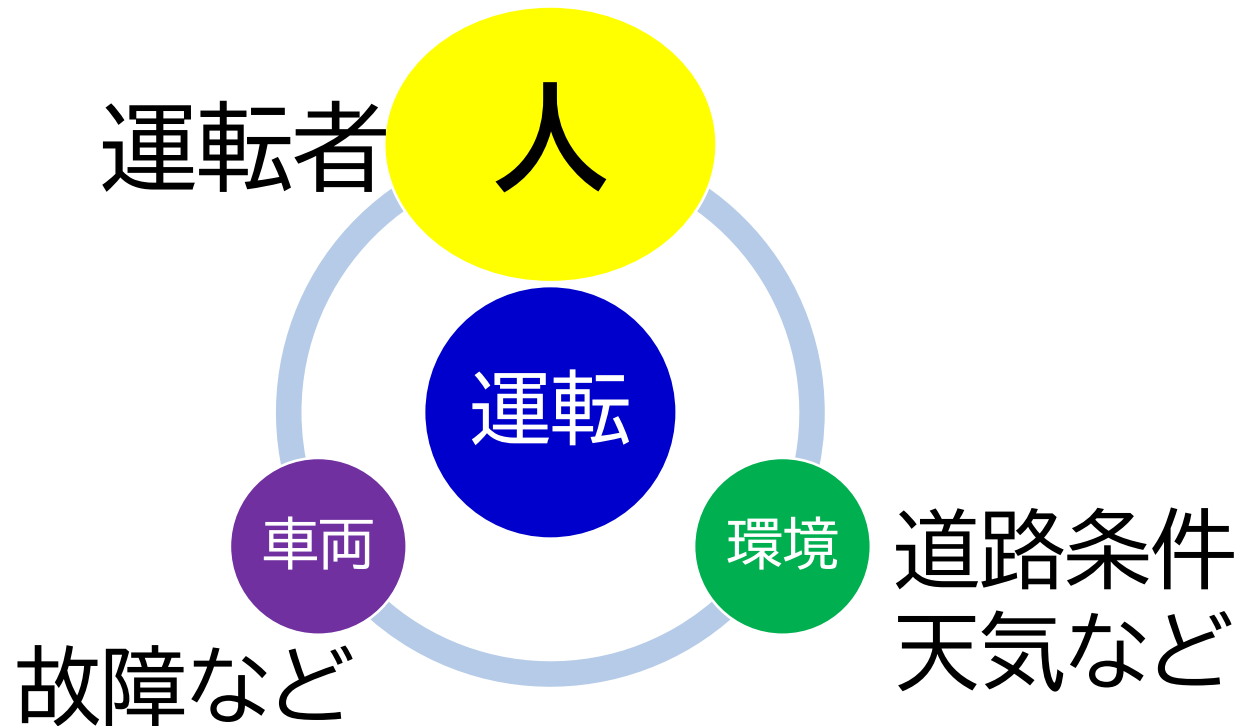
確認不足を招いた
何らかの理由

||

事故の要因

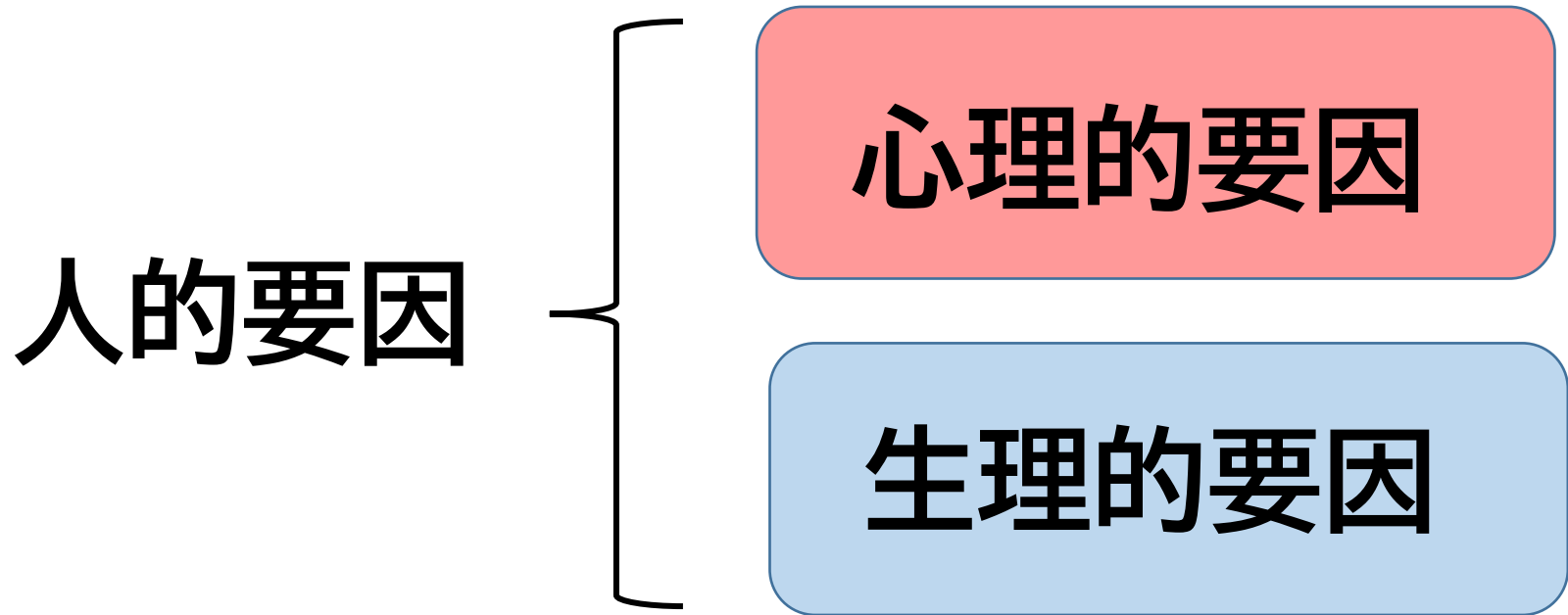
1. 交通事故の「原因」と「要因」

運転操作に影響を与える要因



事故の要因としてもっとも多いのは「**人的要因**」

1. 交通事故の「原因」と「要因」



2. 交通事故の心理的要因

心理的要因とは、

- ▶ 急ぎ・焦り
- ▶ 悩み・心配事・考え事
- ▶ 慣れ・慢心

心の状態によって左右されるもの

2. 交通事故の心理的要因

【急ぎ・焦り】

- ・確認が疎かになる
→安全確認の行程を省略する
- ・操作が雑になる
→急ハンドル、急加速、急ブレーキ
- ・交通法規を無視する
→法定速度違反、一時不停止等

2. 交通事故の心理的要因

【悩み・心配事・考え事】

- ・運転操作や確認を漫然と行う
- ・状況判断や運転操作が遅れる

2. 交通事故の心理的要因

【慣れ・慢心】

- ・思い込みや決めつけ

→ 相手が譲ってくれるだろう、
ここは飛び出しはないから大丈夫

- ・ながら運転

→ スマホを操作しながら、電話をしながら

3. 交通事故の生理的要因

生理的要因とは、

- ▶錯覚
- ▶加齢に伴う変化
- ▶体調不良
(疲労・病気・睡眠不足)

身体機能によって左右されるもの

3. 交通事故の生理的要因

3-1. 錯覚(AとB、オレンジの丸はどちらが大きい?)

実際に体験してみよう

3-1. 錯覚(ヨコ線と同じ長さのタテ線は？)

実際に体験してみよう

3. 交通事故の生理的要因

3-1. 錯覚(上り坂？ 下り坂？)

実際に体験してみよう

3. 交通事故の生理的要因

3-1. 錯覚(出会い頭事故の多い場所)

実際に体験してみましよう

錯覚は必ず起きる
練習しても防げません

しっかり注意すれば
いいのでは・・・？

3. 交通事故の生理的要因

3-2. 注意の限界(1)

実際に体験してみましよう

3. 交通事故の生理的要因

3-2. 注意の限界(2)

実際に体験してみましよう

3. 交通事故の生理的要因

3-2. 注意の限界(3)

実際に体験してみましよう

3. 交通事故の生理的要因

3-2. 注意の限界(統計)

投影資料をご覧ください

3. 交通事故の生理的要因

3-2. 注意の限界(日々の生活での応用)

実際に体験してみましよう

3. 交通事故の生理的要因

3-2. 注意の限界

実際に体験してみましよう

3. 交通事故の生理的要因

3-2. 注意の限界

何があったか、
思い出してみてください。

3. 交通事故の生理的要因

3-2. 注意の限界

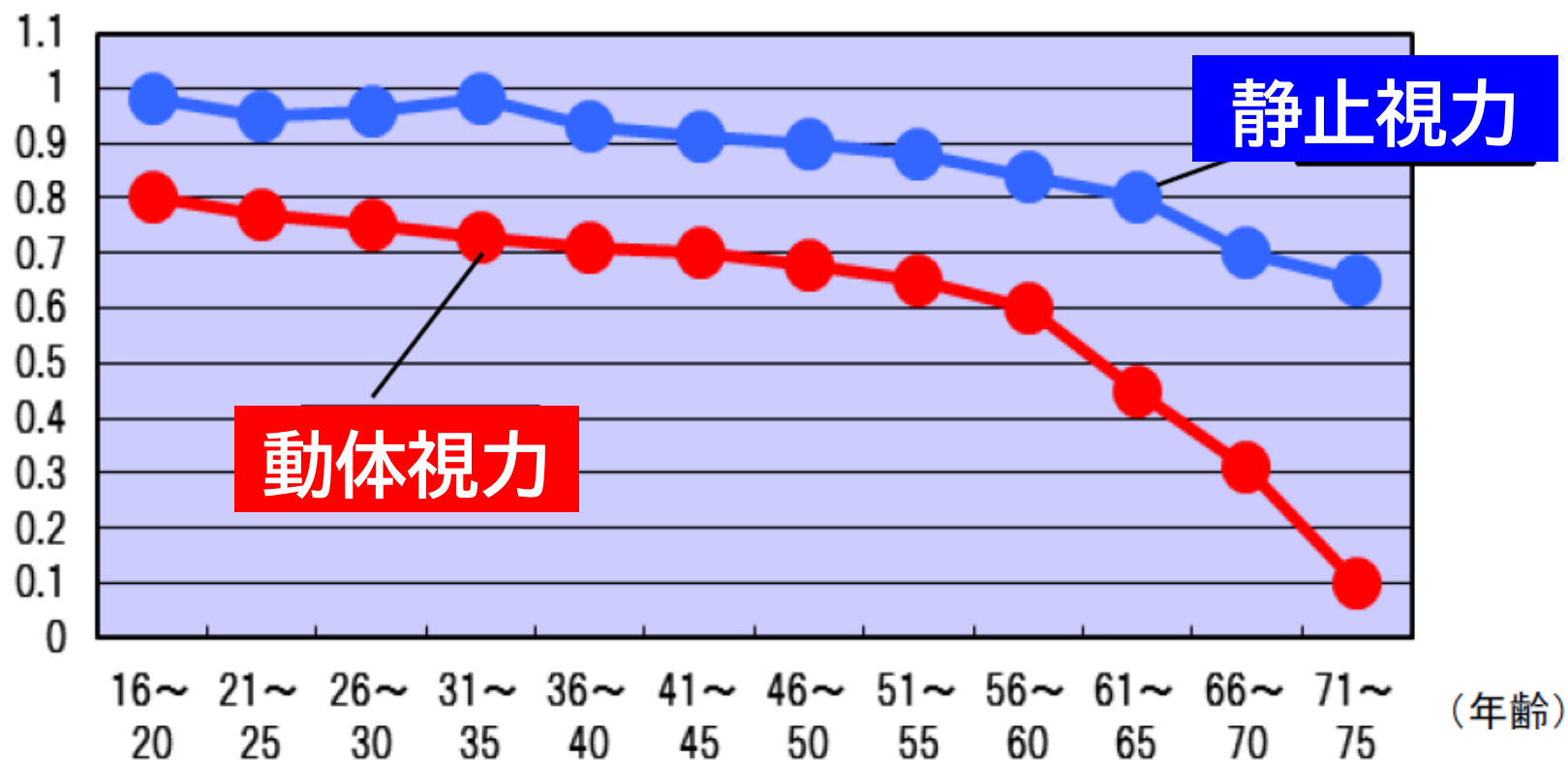
注意は関心のあるものへ

実際に体験してみましよう

3. 交通事故の生理的要因

3-4. 加齢による視覚機能の変化

(視力) 年齢別の、静止視力と動体視力の平均比較



白内障: 60歳以上で7割が該当!

3. 交通事故の生理的要因

3-5. 睡眠時無呼吸症候群(SAS)

睡眠中の気道の閉塞によって、
断続的に無呼吸を繰り返し、
まとまった眠りや質のよい眠りがとれないため、
日中に強い眠気に襲われる睡眠障害

→ 走行中に居眠り運転に陥る、
意識を失うことで重大事故に

3. 交通事故の生理的要因

3-5. 睡眠時無呼吸症候群(SAS)

SASの判断材料

特徴のある“いびき”

1. 上を向いて寝ると大きいいびき
2. 音に強弱のあるいびき
3. 朝までずっと続くいびき
4. 最近、いびきが大きくなって
音も変わってきた場合 など

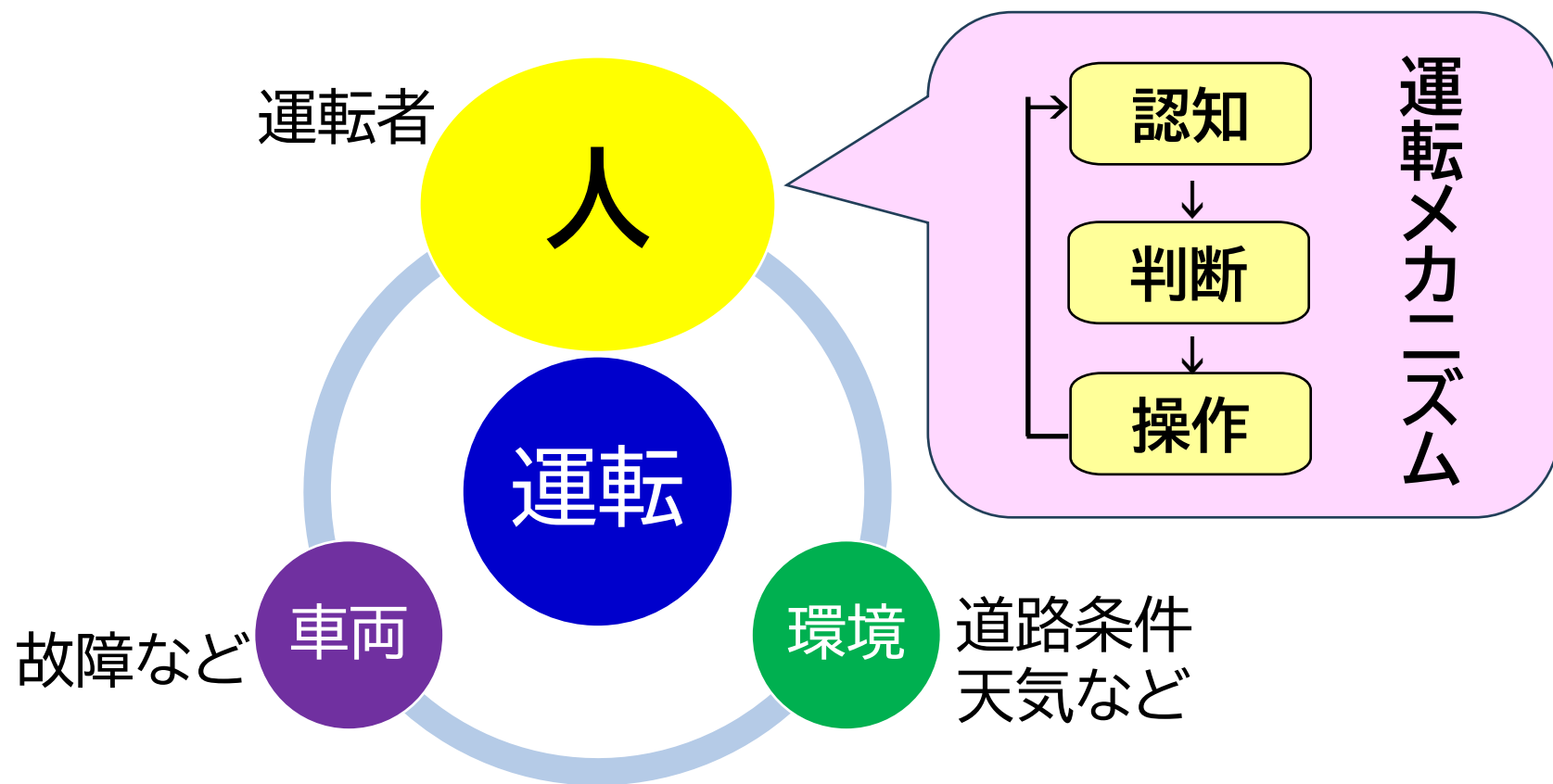
まずはスクリーニング検査の受診！

事故を防ぐためにできること

- ・見落とし・見誤りを防ぐ
 - 指差呼称(右よし、左よし、歩行者なし)
 - 確認をするための時間を確保する
(減速する、止まる)
- ・危険の発見が遅れても対処できるだけの時間を確保する
 - 車間距離をとる、
歩行者・自転車を無理に追い越さない

4. ドライバーの特性を測る“適性診断”

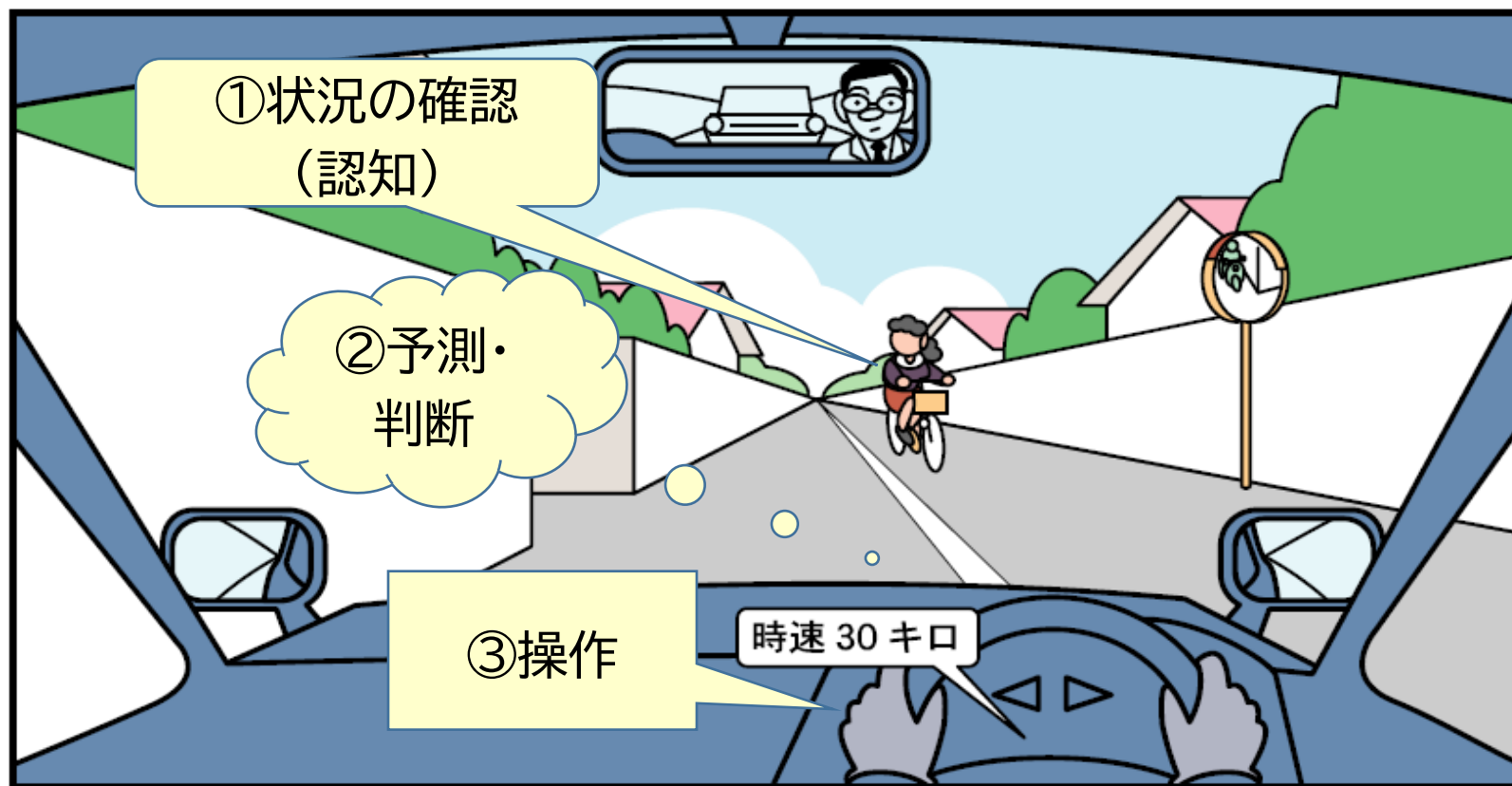
運転操作に影響を与える要因



4. ドライバーの特性を測る“適性診断”

運転メカニズム

車を運転するとき、運転者は何をしているのか



4. 運転適性を知るには(ナスバ適性診断)

適性診断とは

“自分のクセを知って安全運転”

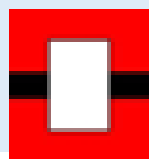
運転特性についての自己理解を促す

【特徴】

1. 生理面、心理面、運転への考え方など、
自分の特性を知る
2. 運転の可否を示すものではない
3. 受診時の状態が示される

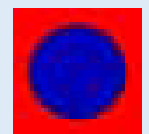
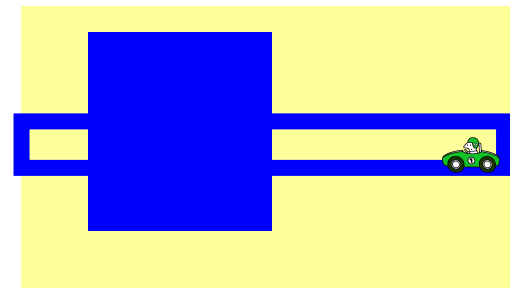
4. ドライバーの特性を測る“適性診断”

適性診断の項目【全診断共通】



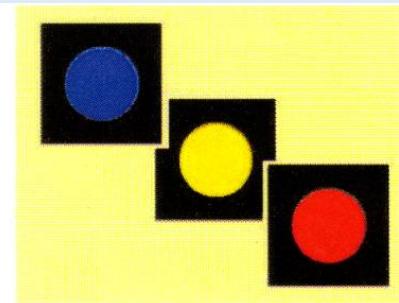
判断・動作のタイミング

動いている物に対しての、
速度認知の正確さを測定します。



動作の正確さ

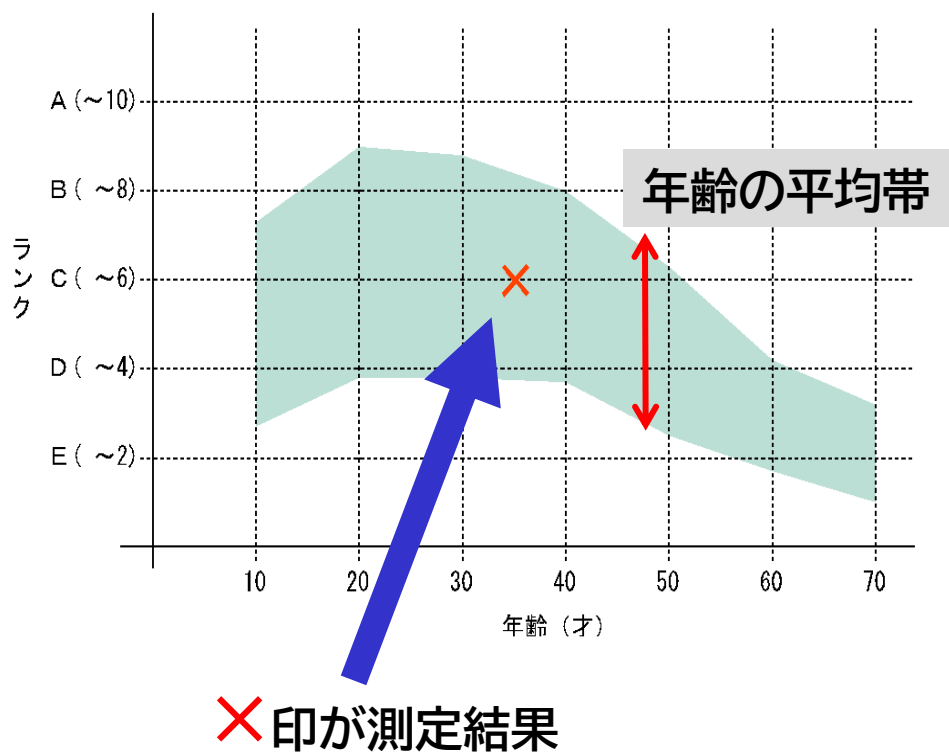
次々に起こる事態に対し、
的確・迅速な処置ができているかを
測定します。



4. ドライバーの特性を測る“適性診断”

適性診断の項目【全診断共通】

視覚機能測定

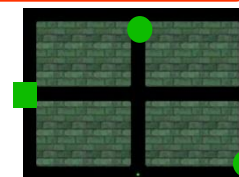


動体視力



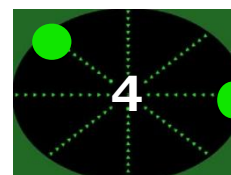
動く物を
はっきり見分ける能力

眼球運動



眼球を、
すばやく正確に
動かす能力

周辺視野



中心と同時に、周辺も
広く見る能力

4. ドライバーの特性を測る“適性診断”

適性診断の結果

（株） 殿

平成 22 年 5 月 10 日
名古屋主管-0000
2014:5010190362

適 性 診 断 票
(初任診断)

独立行政法人
自動車事故対策機構

平成 22 年 5 月 10 日に 殿が受診なされた「初任診断」の結果は次のとおりです。安全運転のためにご活用ください。

[1] 総合所見

○あなたの優れている点

- 動作の正確さが非常に優れています (100 点)
- 協調性が優れています (76 点)
- 感情の安定性が優れています (74 点)
- 他人に対する好意が優れています (68 点)

●運転時に注意していただきたい点

- 危険感受性に欠ける場合があります (30 点)
- 安全態度に欠ける場合があります (34 点)
- 注意の配分に欠ける場合があります (34 点)
- 判断・動作のタイミングが遅いようです (36 点)
- 気持ちのおおらかさに欠ける場合があります (40 点)

[2] 心理適性についての診断結果

判断・動作のタイミング

動作の正確さ

注意の配分

安全態度

感情の安定性

協調性

気持ちのおおらかさ

他人に対する好意

危険感受性

この診断票の取扱いには特にご注意ください。

診断の種類

総合所見

各項目の結果
(100点満点で表示)

○長 所(70点以上の項目)
●注意点(40点未満の項目)

4. ドライバーの特性を測る“適性診断”

運転傾向について注意していただきたい事項(コメント)

＜判断・動作のタイミング＞



判断動作の診断結果は 37点 でした。

1. 点数

2. 点数の理由

判断や動作のタイミングが、早いようです。

自分では確認したつもりでも、実際にはよく確かめもせずに、反射的に手足が先に動いてしまうようです。

このようなくせを「動作本位」あるいは「動作優先」といい、動作が先で確認が後回しになりがちです。「早とちり」といってもよいでしょう。

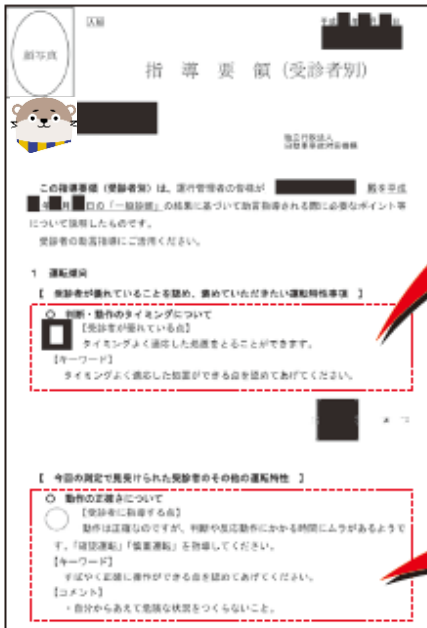
「動作本位」は、急いでいるときに典型的に現れます。例えば、交差点に進入するときに、急いでいると、左右を見ると同時に、アクセルを踏んでいるようなことはありませんか。確認をしっかり行うためには、動作に入る前に一呼吸間をおくようにしてください。

3. 運転への影響・アドバイス

4. ドライバーの特性を測る“適性診断”

指導要領

安全運転指導を行う方のために、
適性診断票を用いて指導する際のポイントをまとめています。



The screenshot shows a form titled '適性診断票 (受診者別)' (Adaptability Assessment Form (Individual)). It includes a section for '1 運転傾向' (1 Driving Tendency) with a red dashed box around the '○ 判断・動作のタイミングについて' (○ Regarding timing of judgment and action) section. Another red dashed box is around the '○ 動作の正確さについて' (○ Regarding accuracy of action) section. Red arrows point from these sections to callouts on the right.

●優れた点や褒めていただきたい点

○ 判断・動作のタイミングについて
【受診者が優れている点】
タイミングよく適応した処置をとることができます。
【キーワード】
タイミングよく適応した処置ができる点を認めてあげてください。

●注意を促していただきたい点

○ 動作の正確さについて
【受診者に指導する点】
動作は正確なのですが、判断や反応動作にかかる時間にムラがあるようです。「確認運転」「慎重運転」を指導してください。
【キーワード】
すばやく正確に操作ができる点を認めてあげてください。
【コメント】
・自分からあえて危険な状況をつくらないこと。

おわりに

事故防止の取り組みに特効薬はありません。

- ・一つ一つの運転操作を確実に行う
- ・ヒヤッとしたことハッとしたことがあれば
どうすればよかったかを考える
- ・時間と心にゆとりを持って運転する
- ・体調を整える 等

できることを積み重ねていくこと大切です。

ご清聴
ありがとうございました。



皆様方の安全をお祈り申し上げます。